

図書館 だより

図書館 ☎69・3706

今の特集 「あの日から1年…」

3.11からの復興と再生の物語を特集します。



『つなみ』の子どもたち

森 健/著 文藝春秋
東日本大震災の被災地の子どもとその家族の再生のドキュメント。「半歩」を踏み出すまでのプロセス。



『高校生、災害と向き合う』

諏訪清二/著 岩波書店
全国で唯一「環境防災科」をもつ学校で学ぶ生徒たち、被災地でのボランティア活動を通して考える。



『河北新報のいちばん長い日』

河北新報社/著 文藝春秋
東日本大震災で、自らも被災しながら報道を続ける東北の地元紙『河北新報』の全記録。

分類特集は
「760」：音楽

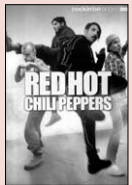
7

7類は、
芸術・美術です。



『アイ・ラブ・ビートルズ』

TOKYO FM出版
これだけは知っておきたい“ビートルズ・ヒストリー&年表”。佐野元晴をはじめ、インタビュー記事も。



『RED HOT CHILI PEPPERS rockin' on BOOKS vol.6』

ロッキング・オン
最強無敵のレッチリ本。カリフォルニアが生んだロックの奇跡！



『童謡の風景』1～3巻

合田道人/文 村上保/絵 中日新聞社
親から子へと伝えたい美しい歌詞とメロディー。「しゃぼん玉」「赤い靴」など、心のふるさとがここに。

ベートーベンから歌謡曲、ウクレレ入門や、iPhoneMusicも、音楽の本はこちらです！

■魚ザル
冬になると、テレビや新聞で、雪景色の中、気持ちよさそうに温泉につかっているサルを見ますが、あのあと温泉から上がって自分たちの家に帰らなければいけないことを思うと気の毒になります。人間なら厚い服や布団を着てさっさと寝てしまえばいいけれど、サルには服も布団もない。濡れた体は帰宅中にどんどん冷えて湯冷めしないのでしょうか。

私は冬になると仲の良かったアシカとは距離を置いて代わりにスナドリが恋人になる人なので、もしサルだったら温泉から出られなくなってしまう。生涯を温泉で過ごし、温泉ザルとして子孫を繁栄したい。そうになると、水中から陸上へと進化した生物がまた水中世界へ帰ることになります。新種・魚ザル。
水族館で気持ちよさそうに泳いでいる魚たちを見てみると、とてもうらやましく、水中世界に憧れます。水族館の水槽の温度は

■公約達成！
1月6日に、今年度（平成23年4月～今年3月末）の公約「入館者数16万人」を達成しました！
新しい水槽や、たくさん面白いイベント、気さくなスタッフ、アットホームな館内など、お客さんの要望を反映して、年度末を待たずの達成。多い月では前年同月の15%を超える入館者数、また年間パスポートは発行数が千人に達する数となりました。16万人とい

■来年度に向けて
まことにもって残念ながら、スタッフの丸坊主姿は見られないのですが、現在すでに何度も会議が開かれ、来年度の公約やさらに進化するためのイベントや戦略を考え中です。
これからも、どんどん盛り上げていき、生き物の魅力が伝わる楽しい水族館を目指していきたいと思っています。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68・2059

「16万人達成」